

(1) 同志社女子大学を志望校・受験校と決めた理由。

同志社女子大学のオープンキャンパスに参加して、学校の雰囲気の良いことや設備が整っている点がとても魅力的に感じました。また、現代社会学部の授業内容や幅広い分野について学べる点、就職率の良さに大変感銘を受けたので、同志社女子大学を受験することに決めました。

(2) 一般入試対策としての受験勉強の進め方について。

[1学期] 5月に部活動を引退するまでは、まとまった勉強時間を確保することが出来なかったため、学校の小テストを利用しながら基礎固めすることを意識しました。特に、英単語は長文を読む上でも大切だと思ったので、小テストはいつも満点とれるように取り組んでいました。間違えた単語はすぐに確認して付箋を貼っていました。苦手な分野は早いうちによくした方がいいと思ったので、英文法の苦手な単元はVintage(参考書)に戻って基本的な内容から丁寧に復習しました。

[夏休み] 8月に入るまでは学校の補習に参加しました。8月になってからは、現代文や古文、英語の読解演習に毎日取り組みました。演習していく中で、知らなかった単語や表現はその都度覚えるようにしました。英文法は間違えた問題に印をつけて、完璧に理解出来るまで何回も解き直しました。夏休みは、学校の補習が終わってからも生活リズムが崩れないように、毎日早寝早起きすることを心がけました。学校の補習や塾の授業で教えてもらったことは、その日のうちに復習して、頭の中を整理するようにしました。

[2学期～入試直前] 2学期に入ると、学校行事があったり、模試が増えていって忙しかったです。なので、学校行事と受験勉強のメリハリをしっかりとつけるように意識しました。模試は、ほぼ毎週あったので終わった後すぐに復習するようにしました。11月頃から過去問の演習に取り組みました。分からなかった問題は参考書に戻って復習しました。参考書や解説を読んで理解出来なかった問題は、塾の先生に聞きに行き、分かるようになるまで教えてもらいました。私は社会の選択科目で現代社会を選択しましたが、学校では政治・経済を履修していたので、足りない部分は塾で参考書を借りて、自分で補いました。入試直前は新しい問題には手をつけず、今までやってきた単語の見直しや社会は一問一答で繰り返し復習しました。

(3) この一年間の受験生活において、受験勉強と高校の行事やクラブ活動の両立、健康面での注意、テレビやスマートフォン等との付き合い方、スランプとその対処法について。

模試の成績がなかなか伸びず、モチベーションが下がってしまうことが何度ありました。そんな時は、志望校が同じ友達と話をしたり、一緒に過去問を解いて教え合ったりすることで気持ちを切り替えて頑張ることが出来ました。また、周りの人たちが頑張っていることは、私にとって良い刺激になりました。

スマートフォンは、使用出来る時間を設定して制限しました。初めは慣れるまで大変でしたが、段々スマートフォンから離れられるようになりました。健康面には一番気をつけていました。その日のノルマを達成出来ていなくても夜更かしして勉強するのはやめて、早めに寝るようにしていました。また、勉強し続けて疲れた時は、しっかり息抜きしてリフレッシュするようにしていました。

(4) 受験を終えて、受験生のみなさんへのメッセージ。

受験勉強していく中で、思うように成績が伸びずに悩んだり、モチベーションが下がってしまったりすることがあります。その時は、焦らずに今やるべきことは何か考えて諦めずに頑張ってください。苦手な分野から目を背けずに取り組めば、良い結果につながると思います。生活リズムを崩さず、自分の体に気遣いながら最後まで頑張ってください。